

# 保護司さんという一筋の光

～社会を明るくする運動館林邑楽地区作文コンテストより～

昨年12月27日、群馬会館2階ホールにおいて「第73回社会を明るくする運動作文コンテスト」入賞者表彰式が開催されました。中学生の部は、86校3,922点の応募作品があり、明和中学校1年生の天海美祐(あまがい みゆ)さんの作品が優秀賞(群馬県中学校長会長賞)に選ばれました。

私も読ませていただき、中学1年生の若い世代の方がここまで社会を理解し、保護司の皆様が力をもらえるような素晴らしい作文を書いていることに感心をいたしました。この作文は、令和6年1月の「館林邑楽更生保護サポートセンター便り」の第45号に掲載されました。掲載文をご紹介します。

# 【保護司さんという一筋の光】

明和中学校1年 天海美祐

テレビのニュースでは毎日のように事件が報道される。私は毎日それを見ている。そして、被害者の人がかわいそうだなと思う。加害者側の気持ち、周りの環境なんて考えたこともなかった。小6の時にあのビデオを見るまでは。

小6の道徳の授業の時、一度万引きをしてしまい、それからずっと社会復帰ができないという男性のビデオを見た。私は驚いた。確かに万引きは悪いことだけれど、たった一度やっただけで社会に戻れない。周りが自分を遠ざける、孤独にする、ののしる。そんなひどいことがあるのかと思った。けれど、私もそんな人が近くにいたら、同じ態度をとってしまうかもしれないなと思った。そして、私だったら、誰も味方してくれないのがずっと続くのだったら、そんな人生嫌になってしまいうだろうなと思った。けれど、その人にはたった一人だけの味方がいた。それは「保護司」という職業の方だ。私は、その時に初めてその職業を知った。その万引きをしてしまった男性は「誰も助けてくれなく、味方がいない時に保護司さんがいてくれて本当に良かった。保護司さんのおかげで、またやり直そうと思えた。」と言っていた。その後、その男性は、保護司さんの支えによって職につき、社会復帰ができたそうだ。

それで私は保護司の職業に興味を持ち調べてみた。すると、非行や犯罪に走ってしまった人を更生させるために指導や助言を行う職業で、その活動は全てボランティアだと出てきた。私はボランティアということに驚いた。そして、そんな人がいるのなら、社会が少しでも明るく、犯罪を犯してしまった人にとっても楽しくなるのではないかなと思った。そして私は保護司の方が受けたインタビューを見た。「非行や犯罪は悪いことです。でも、その人がなぜ犯罪をしてしまうのか、考えたことはありますか？もちろん、その人自身が悪いこともあります。その人を取り巻く環境、人間関係などが原因の可能性もあります。ですから、一度非行や犯罪に走ってし

まったからといって、皆に責められる必要はないのです。」と言っていた。私はハッとした。今まで犯罪者は悪い人、ひどい人、自分の事情に他人を巻き込む人という印象だった。でも、必ずしもその人が悪いわけではないんだ。もしかしたらSNS等で何も考えずに発言する私たちのせいなのかもしれないんだ、と気づかされた。

それから私は、日々を過ごす時の気持ちが変わった。ニュースを見る時には、被害者だけでなく、加害者の気持ちも考えるようになった。また、SNS等で無責任に人を責める、ののしる投稿をする人に怒りを覚えたりするようになった。そして、私は考えた。世の中には加害者に対する感情が、最初の私と同じ人がたくさん、それもほとんどの人がそうなのではないかと思った。だとしたら、保護司さんのおかげで一度は社会復帰できたとしても、周囲がその人を責めて、その人はもう嫌になり、また犯罪や非行に走ってしまうかもしれない。だから私は、犯罪や非行が起きないようにするには、世界の人々の、加害者に対してや、その犯罪に自分は関係ないと思いつく意識を変えなくてはならないと思うのだ。そのためには、政府や保護司会の方が、YouTubeやテレビ、SNS等で、今よりもっと保護司さんの活動、加害者の方の社会復帰について、犯罪や非行に走ってしまう例などを一人でも多くの人に知ってもらえるようにすることが必要だと思う。そうすれば、犯罪や非行をしてしまった人への周囲の反応が変わり、周りのせいで罪を犯す人も減り、社会は明るく、そして少しでも楽しいと思える人が増えて、犯罪や非行の件数が限りなくゼロに近くなるのではないかと思う。

テレビのニュースでは、毎日のように事件が報道される。私は、その事件が起こる原因が、もしかすると私たちなのかもしれないと最近知った。誰もが犯罪は悪いことだと分かっている。けれど、自分たちの無責任な発言、投稿で犯罪が起こることもあると分かっている人は多くはないと思う。なぜ人は罪を犯すのか、よく考えてほしい。自分は関係ないと思いつく、相手を傷つける発言や投稿もやめてほしい。一人一人が、他人事ではなく、自分事として、自分の発言一つで他人が罪を犯すかもしれないことを、SNSが発達して気軽に世界中に声を届けられる今だからこそ、考えてほしい。毎日

流れる事件がだんだんと減り、明るい社会になることを私は切に願っている。



【明和町の保護司 鯉沼さんと表彰された天海美祐さん】

素晴らしい作文をありがとうございました。天海美祐さんの益々のご活躍を期待いたします。

令和6年2月21日

明和町長

富塚もとすけ